

F. フレーベル教育論

—— 発展経緯・歴史的背景を踏まえた一検討 ——

渡 辺 直 人

F. フリーベル教育論

——発展経緯・歴史的背景を踏まえた一検討——

F. Froebel Education

- A study based on the development history and historical background -

渡辺 直人

Naoto Watanabe

要 約

現在、子どもの教育や発達に関して様々な問題が指摘されている。保育・幼児教育の振り返りが求められている中で、これらの基礎を築いたフリーベルの教育論に立ち返ることが重要であると考え。本稿では保育・教育やフリーベル研究の発展に寄与すべく、フリーベル教育論を構成する種々知識の収集・検討を行った。具体的には、フリーベルの生涯、恩物・恩物理論と日本の受容、教育論・子ども観、ロマン主義に関して考究した。

(1) 目的

昨今では子どもや保育・幼児教育において多くの課題がある。子どもの生活の変化や運動、学力問題、問題行動等、課題は多い。また幼児教育においても毎年のような死亡事故を出している。不適切指導によってニュースに取り上げられることも多く、子どもや保育・幼児教育における課題は多い。

このような中で、より保育・幼児教育の見直しが求められている。保育・幼児教育の根本をみると、最も基礎となる人物として、フリードリヒ・フリーベルが第一に挙げられるであろう。

彼の教育理論は寓意に富み、複雑で難解なことは有名である。そのため文献も四散している状況であり、彼の思想・教育論の要点を示すまとまった文献は少ない。今後のフリーベル研究、保育・幼児教育の発展のためにも、それら収集の必要性は高い。

そこで本研究では、フリーベル研究、保育・幼児教育、保育原理の発展に寄与すべく、その一資料として、フリーベルの教育理論に関する知見を収集・検討することを目的とする。

(2) フリーベルとは何者か

保育・幼児教育を語るうえで、フリーベルはなくてはならない存在といってもよい。フリーベルは幼稚園の創始者であり、積木などの玩具を開発した人物である。現代でも聞かれる名前であり、今後も語り継がれる人物であろう。

彼は幼児教育に大きな影響を残したが、彼の人生を振り返ると、決して「生まれながらの幼児教育者」というわけではない。彼は人生の初期ではキリスト教的な家庭生活を送り、青年期では自然科学や鉱物学を専攻していた。さらには教育者になる前までは建築家を目指していたほどである。たまたま学校で欠員がでたこともあり、グルーナーによって教育の道に誘われ、偶然ながら教育界へとたどり着いた人物であり、それまでは教育者になるとフリーベル自身も思っていなかったであろう。それまでは、まさに教育とは無縁であった人物で、倉橋のように青年時代から幼稚園に通い詰めるような、生粋の「子ども好き」な人物ではない。しかしながら、今では後世まで語り継がれる幼児教育史上最も重要な人物としてフリーベルは位置している。

彼の考えは神学的かつ哲学的である。万有在神論、児童神性論や生命の合一など、様々な教育哲学を提唱しており、彼の実践もそこから立脚している。原文も極めて難解で、そのこともあり、幼稚園・フレーベル理論が輸入された明治時代当時は理解が至らず恩物中心主義に走り、手法に重きを置かれたことを倉橋らによって批判されることとなった。このような形骸化は日本のみならず海外でも問題視され、アメリカではデューイも同様に批判しているところである。しかし、このような形骸化を招いたその実情は、彼の教育哲学の難解さの証左でもある。

その教育哲学が体系化された玩具が、今にまで伝わる恩物である。恩物は 20 種類あるが、今日では 1-10 種類を「恩物」、11-20 を「手技」もしくは「手技工作」と呼称している。内容は様々であるが、幾何物の操作を主とした玩具である。これらは一般的に現代において使用されているものではないが、遊具の土台を作ったのは間違いない事実である。

以上、フレーベルの一端を示したが、以下ではこれらに関して詳しく検討したい。具体的には、フレーベルの生涯、恩物とその理論・背景、教育論、ロマン主義に関して述べていく。

(3) フレーベルの生涯 教育者になるまで

倉橋は青年期から子どもと遊んでいたというエピソードが残っている一方で、フレーベルは元来、教育とは無縁の人物であった。彼の生涯を、津守(1951)の文献を参考に、端的にみていく。

フリードリッヒ・ヴィルヘルム・フレーベル(Friedrich Wilhelm August Froebel, 1782-1852)は、1782年4月21日 チューリングゲンのオーベルワイズバッハで生誕した。兄が4人、姉が1人いた。父はヨハン・ヤコブ・フレーベルといい、村の牧師をつとめており、多忙な人物であったという。実母はフレーベルを生んで約9か月後に死別してしまう。1785年に父は再婚しフレーベルに義母ができたが、その義母から最初は可愛がられていたものの、のちに虐待を受けるなどした。

1789年、小学校に通うこととなった。この小学校では毎週聖書を一生ずつ暗記しており、宗教の時限はフレーベルが最も好きな時間であったという。生活においては、父が牧師であることから、キリスト教的な生活をするよう求められたという。

1792年には叔父のホフマン家に引き取られる。フレーベルが好ましくない立場に置かれていることをホフマンは見抜き、ヨハンに頼み引き取ったという。ホフマンは大変温和で優しく、

フレーベルの第一の理解者となった。

1797年、15歳になったフレーベルは林務官の見習いとして2年間勤務した。上司は多忙でフレーベルに何も教えることはなかった。1799年には実家に戻った。

その後はイェナ大学に入学し、鉱物学・自然科学を学んだ。1年半経ったのち、学費が続かなくなり退学した。その後は働くことになるが、1年ごとに職を変えるような生活であった。1801年には農場の見習いを行った。1802年には父が亡くなる。その後、山林書記官になる。1803年、土地測量の仕事に就く。1804年、新聞広告をみて個人秘書の仕事に応募し、合格するも辞退する。そのころに建築家を目指すようになる。

そして1805年、建築家につくためフランクフルトに行く。そこでグルーナールという人物に会う。グルーナールは小学校の校長であり、学校の人員欠員からフレーベルを誘う。フレーベルはそれを引き受け、教員になる。

以上のように、フレーベルの幼少期・少年期・青年期において教育学とは全くの無縁出会った人物である。それ以降、1838年に恩物を創案する。1840年、ブランケンブルクの町を眺めている時に「これだこれだ、キンダーガルテン」と、名前を思いついたことがきっかけで、今にまで続く「幼稚園」という名前ができた。

(4) 恩物と日本幼児教育

恩物とは、1838年にフレーベルによって創案された教育遊具である。1-20種あるうちの1-10種を主に恩物(Gifts)と呼び、11-20を手技(Occupation)、もしくは手技工作と呼ぶ。しばしば1-20種を包括して恩物ということもある。

この恩物は幾何物で構成されている。恩物とは、辞書を用い説明すると、「幼稚園の創設者フレーベルの発案になる遊具。ドイツ語の「Gabe」の訳で、幼児に対する神からの贈物の意。事物を認識させる基礎として積木、球などを用い、第1～20恩物までである。種々の修正を経て広く幼児教育の領域に普及し、日本では1876年幼稚園の創設と同時に導入された。」(「ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典「恩物」の解説」より引用)という。

この1-20種類は以下の通りである。

- | | |
|---------------|----------------|
| 第1 恩物:球 | 第2 恩物:円柱 球 立方体 |
| 第3 恩物:立方体 | 第4 恩物:直方体 |
| 第5 恩物:立方体・三角柱 | 第6 恩物:直方体・柱 |

- | | |
|-------------|-----------------|
| 第7 恩物:色板 | 第8 恩物:木の棒 |
| 第9 恩物:鉄環 | 第10 恩物:小粒 |
| 第11 恩物:穴あけ | 第12 恩物:縫う |
| 第13 恩物:描く | 第14 恩物:組む・編む・織る |
| 第15 恩物:紙を折る | 第16 恩物:紙を切る |
| 第17 恩物:豆細工 | 第18 恩物:厚紙細工 |
| 第19 恩物:砂遊び | 第20 恩物:粘土遊び |

(五十嵐(2012)、玉成高等保育学校幼児教育研究会(1976)、玉成保育専門学校恩物研究会(2000)を参考。また、第1 恩物から第6 恩物までフレーベルが考案した(フレーベル・ペスタロッチ学会による。))

また、これら遊具は何を目的にして作られたのだろうか。これに関していえば、例えばフレーベル館では以下のように述べている。

「恩物」は、遊びの中で、自ら学ぶ力を育む子どもの目線に立った本物の教育遊具」

恩物遊びのめざすもの

1. 自発性を引きだす。
2. 創造性を育てる。
3. 社会性の基礎を養う。
4. 身体諸器官およびその機能の発達を促す。
5. 知能の発達を促す。
6. 科学性の基礎を養う。
7. 集中力を養う。
8. 情緒を安定させる。
9. 美的感覚を養う。
10. 自分で片づける習慣を身につける。

(つばめのおうち「フレーベル恩物特集」より引用)

この恩物は、上述した通り幼稚園が 1876 年に東京女子師範学校で本格的に導入された際に、恩物も同様に導入された。ただし、幼稚園、恩物と分けて考えるのではなく、幼稚園を導入するといえば、同時に恩物も導入する結果となったという考えの方が正しい。その頃の幼稚園教育内容はほとんどが恩物であり、それは文部科学省が公開している当時の東京女子師範学校附属幼稚園の時間割でも、恩物が日課に採用されていることが確認できる(図1)。

現代では幼稚園は法的にも一条校に認められている「学校」であり、世にも受け入れられている幼児を対象とした保育・教育施設である。ただし、元来はフレーベルが考えた幼児教育施設である。

これに至るまでの幼児教育の歴史に関して概観してみると、1875年に京都に柳池小学校附設幼稚遊嬉場ができ、1876年に東京女子師範学校(現お茶の水女子大学)附属幼稚園が誕生した。ただし、設立について、実際には簡単にいかなかった。

上述したが、幼稚園は「フレーベルが設立した幼児の教育施設」であり、これを「そのまま」輸入する形をとった。幼稚園はフレーベルの教育思想の体系化したものである。すなわち、フレーベルの思想、フレーベルの保育理論、恩物なども同時に輸入しなければならないということでもある。しかし、当時インターネットもなかった時代に調べるのは簡単ではない。フレーベルの思想、保育理論、恩物を知っている人物がいなければ、幼稚園の設立に至らない。そのような中で見つかった人物こそが、松野クララ(クララ・チーテルマン)である。彼女により、幼稚園は日本に導入することができ、同時に恩物も幼稚園に導入された。

その他にも、頌栄保姆伝習所のアニー・ライオン・ハウ(Annie Lyon Howe, 1852-1943)等、ドイツの幼児教育に明るく、保育に熱意をもって取り組んだ人物によって、日本の幼児教育は発展した。また、恩物は当時の保育士養成校の学習教材となった(表1)。

(5) 恩物の理論

フレーベルはこれらに関し、なにも考えなしに作成したわけではない。フレーベルは球体を完全無欠な物体で、神が作った形態であると考えた。一方、柱というのは人間の造形物の象徴と捉え、球体とは対比される物体であると捉えていた。球体に関して、荘司(2001a)は以下のように述べている。

「万物の構成要素は、平面、局面、曲線、直線、点である。フレーベルは球体を彼の幾何形体の基礎としたが、球体の表面には点も線もない。しかし、よく観察すれば球体の外面は全て点であり、千であり、球体の内面には平面や曲面が存在している。したがって、フレーベルは球体から一切の形態が

第三ノ組 小児満三年以上四年以下						
土	金	木	水	火	月	
同	同	同	同	同	室内会集	三十分
同	同	同	同	同	体操	三十分
同	同	同	同	同	球ノ遊ヒ(第一箱)	四十五分
同	同	同	同	同	小話	四十五分
同	同	同	同	同	貝ノ遊ヒ	四十五分
同	同	同	同	同	図画(三倍線ノ直角等)	四十五分
同	同	同	同	同	遊戯	一時半

第二ノ組 小児満四年以上五年以下						
土	金	木	水	火	月	
同	同	同	同	同	室内会集	三十分
同	同	同	同	同	体操	三十分
同	同	同	同	同	博物修身等ノ話及図画	四十五分
同	同	同	同	同	形體積ミ方(第三箱ヨリ第四箱ニ至ル)	四十五分
同	同	同	同	同	針画	四十五分
同	同	同	同	同	図画(三角形等ニ至ル)	四十五分
同	同	同	同	同	遊戯	一時半

第一ノ組 小児満五年以上六年以下						
土	金	木	水	火	月	
同	同	同	同	同	室内会集	三十分
同	同	同	同	同	博物修身等ノ話	三十分
同	同	同	同	同	計數(一ヨリ百ニ至ル)	四十五分
同	同	同	同	同	形體積ミ方(第七箱ヨリ第九箱ニ至ル)	四十五分
同	同	同	同	同	針画	四十五分
同	同	同	同	同	図画及紙片	四十五分
同	同	同	同	同	遊戯	一時半

図1 東京女子師範学校附属幼稚園の時間割
(文部科学省より引用)

出てくると考えた。」

「第1 遊具はボール(球体)であつた。円柱体は第2 遊具において、球体と立方体の対立を調和する媒介物として提供された。卵体や楕円体は重力による球体の変形形態であり、円錐体も円柱体の変形形態である。三角柱体や四角柱体は立方体の重力による変形形態である。すなわち、重力の制約を最も受けにくい球状体と、重力の制約を最も受けやすい立方体と、両者の中間に位置する円柱状体という3 者のカテゴリーに入らない形状は自然界に存在しないことになる。」

恩物の目的として「神を知らせる」という点もよくいわれる。この恩物に関して、球状体と、立方体と、円柱状体という三つのカテゴリーに入らない形状は自然界に存在しないといひ、丸は全ての形状が生まれると荘司(2001a)は述べている。すなわち、理屈的にはこの世のすべての形を恩物は取り扱っているといえる。神は万物の創造者で、全知全能であり、この世の全てを統べる。すべての形を知らせることを通して、すべて

表1 東京女子師範学校保姆練習科と頌栄幼稚園保姆伝習所との科目における比較

		東京女子師範学校 保姆練習科	頌栄幼稚園 保姆伝習所	
		修業年限 1年 (前・後期)	1年	2年
修身		1	6 (聖書)	6 (聖書)
教育学		1	0	2
心理学		0	2	0
理科		2 (物理、人体、動植物)	4 (動植物、生理)	4 (鉱物、生理)
数学		1	0	0
保育学	理論	7	2	2
	応用	1 (幼稚園論、フレーベル伝)	2	2
	実習	6	10	10
唱歌		1と2分の1 (遊戯とも)	4	4
音楽			7	7
図画		1 (初歩)	0	0
体操		1	0	0
文学		2分の1	1 (作文)	1 (作文)
週時間数合計		23	38	38

注) 阿部 (1976) 「表7 東京女子師範学校保姆練習科と頌栄幼稚園保姆伝習所との科目における比較」より引用。一部表記を変更。

を創造した神をも知らせる、それが恩物であるともいえよう。

(6) フレーベルの教育論

フレーベルの教育、すなわち幼稚園における幼児教育は、「恩物」だけではない。このほかにも「運動遊び」、「庭作り」の3要素から構成されているのがフレーベルの幼児教育である。青木(2017)によれば「幼児期の恩物遊びから始まり、作業具による形作ることへの作業を通して養われた「何かを作ろうとする衝動」(Beschäftigungstrieb)が、そして運動遊びを通じて培われた「活動することへの衝動」(Tätigkeitstrieb)が、いよいよ「庭作り」へと結びつき、展開する。」と説明している。これを言い換えれば、第一段階に恩物、第二段階に運動遊び、第三段階に庭作りと、段階的に分けられているといえる。そして

これは、フレーベルの教育理論が恩物に留まらないことをも同時に示している。

庭についてフレーベルは早い時期から着目しており、フレーベルがブランケンブルクを眺望していた際に言った「これだこれだ、キンダーガルテン」といった言葉からもわかる。キンダーガルテンとは、「子ども」の「庭」という二つの意味からなっている。命名した時点から、フレーベルは「庭」を意識していたことがうかがえよう。

その庭の活用に関しては、実際の活動でもそれは明らかである。「キンダーガルテンは単なる遊具による遊びをする施設ではなかった。晴れた日には屋外で遊び、園庭で「労作」(die Arbeit)をしたり、散歩や自然環境に関わる活動が大切にされていた。——中略——外的世界である自然に即して子ども達

を養育しようとする「合自然性」(die NaturgemaBheit)に満ちた環境を提供し、自然に内在する神の摂理によって、人間教育を神に委ねるための施設なのである。」(荘司(2001b)より引用。)

それら教育論にはどのような思想背景、子ども観、教育観があるのでしょうか。フレーベルの思想を概観すると、極めて哲学的であり、そして生体的であり神聖的でもある。それは彼の人生や生育環境、社会環境も関わっている。ヨーロッパ自体がキリスト教的であり、さらにフレーベルは父が牧師であるなどキリスト教に深くかかわりながら生きてきた。

まず、フレーベルの子ども観に関して叙述する。社会的な教育観・子ども観を歴史的に示すと、子どもという存在に関して、古くは原罪的な存在であった。生まれながら、受胎した時点で罪を背負っているというもので、子どもを厳格に正しく導くというものが根本にあったとされている。しかし近世に入り、コメニウスやルソー、ペスタロッチ、社会的趨勢としてのロマン主義以降、子どもは純白な存在としてポジティブな見方がされるようになった。

フレーベルも同様に原罪的な価値観は持っていない。子どもは純白な神性を持っており、大人が触れ合うことで、「純粹へ回帰」できるという点で優れた存在であると考えていた。

次に、フレーベルの教育観に関して述べる。フレーベルは子どもの教育に関する重要事項として「予感」を述べている。これは、いわゆるレディネスに近い言葉である。予感に関して広岡(2018)は、ボルノーの言を引用して重要性を述べている。ボルノーは、言葉の習得に関して、極端な早期教育は偏りが生じるのではないかと述べ、そして「子どもの発達段階全体における「読み方」の早期教育よりも、むしろフレーベルのいう「予感・直観」、もしくは自分で習得する概念づくりの徹底的な教育の方が幼児にとってむしろ必要なのではないかと反論する。」と述べている。

また、フレーベルは徹底的な児童中心主義であり、画一的な教育を嫌っていた。その思想は文献の随所で見受けられる(例えば、長田(1924))。これらのことから、現代でも課題となっているような一方的教え込みではなく、子どものレディネス、「予感」ないし子どもの実態に応じた教育が、子どもの成長・発達上で有用だとフレーベルは考えていたのであろう。

(7) 今にまで残る影響

今では石井式漢字教育、七田式教育、ヨコミネ式教育法、

モンテッソーリ教育、シュタイナー教育、ドーマン・メソッド(ドーマン法)、ニキーチン教育、フレネ教育、レッジョ・エミリア・アプローチ、イェナプラン、等、様々な保育・教育がある。多くの種類があるが、「フレーベル教育」をみた人は少ないのではないだろうか。そして、日本だけでなく世界でも「フレーベル教育」と謳っている幼児教育機関は少ないだろう。

しかしながらフレーベルの影響は今にまで続いている。どこの園でも必ず置いてあるだろう折り紙や積木はフレーベルの恩物の影響といってもよい。

これらを詳しくみていくと、折り紙の発祥や伝播に関しては諸説あり、中国起源説、日本起源説とあるものの、一説によれば、19世紀前半に西洋の奇術師が日本から手品のタネとして折り紙を持ち帰り、それがヨーロッパで広まったという。そして、恩物を通して再輸入されたものであるといわれている(梶浦、2000)。

積木に関して、この玩具はフレーベルが初めて考案した玩具である。無論、物体を積み上げるという所作については誰もが思いつくであろう。ただし、教育玩具として体系化し、世に発信したという点で、積木の元祖はフレーベルであるといわれている。今では積木を発展させた遊具(レゴブロックやマインクラフトなど物体を積み上げる等幾何物の操作を通した創造性のある遊び)がいくつか存在するが、これらはフレーベルから始まったといっても過言ではないのではないだろう。

以上、「フレーベル教育」という名を謳った教育は限りなく少ないものの、影響は今にも受け継がれていることは確かである。

また、フレーベル教育、と名を謳った教育の少なさに関して、上述したよう、元来「幼稚園」自体が「フレーベルが設立した幼児教育施設」である。今では様々な教育が存在するものの、特に日本に幼稚園を導入した明治当初は「幼稚園＝フレーベル教育」であった。ただし、恩物が主な保育内容として扱われていない現在ではこのように見るには限界があるが、根本的にみればこの定式であり、今もそれら精神は今もなお受け継がれているものであろう。

(8) ロマン主義とフレーベル

フレーベルの紹介文をみると、しばしばロマン主義という単語がでてくる。特に「フレーベルの思想はロマン主義である」という説明がなされた紹介もたびたびみられるものである。ただ、これには疑問が生ずる。果たして本当にロマン主

義的なのか、また、このロマン主義というのはどういふものか。以下で整理する。

まず、ロマン主義を端的に説明しているものとして、例えば辞書では以下のように示されている。

「旺文社世界史事典 三訂版「ロマン主義」の解説

啓蒙主義・古典主義に反発して 18 世紀末におこり、ヨーロッパに流行した哲学のおよび芸術的思想の流れ。広い意味では、かたくなしい理屈をきらって奔放（ほんぼう）な感情の流れを尊び、現実のきびしさに背を向けて幻想の美を追い、自然に憧れる人間感情をさすこともある。」

「世界大百科事典 第2版「ロマン主義」の解説

ロマン主義は、18 世紀末から 19 世紀前半にかけてイギリス、ドイツ、フランスを中心にヨーロッパ各地で展開された文学・芸術・思想上の自由解放を信奉する革新的思潮であり、合理主義の普遍的理性に対抗して個々人の感性と想像力の優越を主張し、古典主義の表現形式の規制を打破して自我の自由な表現を追求しようとした文芸運動である。」

「旺文社日本史事典 三訂版「ロマン主義」の解説

18 世紀末期～19 世紀初頭にかけて、資本主義・市民階級の発展を背景に展開した思想・文芸の傾向。理知的な啓蒙主義・古典主義に対し、感情を重んじ、個性の伸張、人間性の解放を主張する。」

「ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典「ロマン主義」の解説

18 世紀後半から 19 世紀前半にヨーロッパで興った文学、哲学、芸術上の理念や運動。ルソーの思想や「シュトゥルム・ウント・ドラング」運動に端を発し、17 世紀以来の古典主義を人間精神の内奥の力を否定したものとして攻撃、なによりも個性や自我の自由な表現を尊重し、知性よりも情緒を、理性よりも想像力を、形式よりも内容を重んじた。」

以上、各辞書の引用である。これらをまとめると、ロマン主義とは、端的に述べると「理性を重んじた古典派への反発として、感性を重んずる傾向が表れた」、これがロマン主義といえるのではないだろうか。

本題に戻るが、これらはフレーベルと関連があるのだろうか。

フレーベルの生涯を垣間見ると、自然科学や鉱物学といったことにも関心をもっていることがわかる。知的興味が深く、極めて理性的といえるのではないだろうか。

ここで述べておきたいのが、ロマン主義という全体を指す言葉からフレーベルの思想との関連を見出そうとすること自体困難なことであるのではないだろうか。シラー、シェリング等、ロマン主義を代表とする人物から、少なからず影響があったことは指摘されているところである。また、時代・社会環境的に、ロマン主義的世論・趨勢の中で過ごしたこともまた事実であり、無意識のうちに影響を受けたことも想像に難くない。しかしながら、「ロマン主義」という社会的理念・観念という極めて大きなマクロの視点から、フレーベルという個の視点に焦点をあてること、紐づけることは難しいのではないだろうか。確かにロマン主義ではあるが、だからといって細かい部分を切り取って、それらすべてをロマン主義、というように決めつけることは難しい。フレーベルの一手手全てがロマン主義というのは極論であるという他ない。結論として、フレーベルの思想全てをロマン主義的であると「断言」することもまた難しいと考える。「ロマン主義的世論・趨勢の中で過ごし、それら世論に少なからず影響を受けていたことも考えられる」という言い方が適切ではないだろうか。

また、これらに関して、ロマン主義とは感性を重視したのか、もしくは「その時代に、その土地にいたからロマン主義的である」のか、自由発想をしたからロマン主義的なのか、この点に関して整理がついていない。何をもってして「ロマン主義」であるのか、この点の更なる検討が必要である。

(9) おわりに

本稿では、散見されるフレーベルに関する知見を収集し、フレーベルにおける概論を示した。フレーベルの教育論を解き明かすうえで必要な要点、フレーベルの生涯や恩物の意義、子ども観等を紹介した。

無論、本稿は概要を示したに過ぎない。さらに細かな部分にまで至れなかったことが課題でもあると考える。

また、上記に関しては当然諸説あり、立場によっても説は異なるであろう。立場が異なれば、解釈も異なる。だが、様々な主張に触れることによって、三次元的な見方ができるようになり、より客観性が増した説を提唱することができよう。無駄な説はなく、どれも必要な意見であるということはここで述べておきたい。

参考文献

阿部智江(1976). 明治期における保育者養成. 青山学院女子短期大学紀要, 30, 69-84.

青木美智子(2017). フレーベルの「庭造り」(Gartenpflege)から見る幼児期における栽培の意味. 京都橘大学研究紀要, 43, 1-15.

五十嵐裕子(2012). 折り紙の歴史と保育教材としての折り紙に関する一考察. 浦和論叢, 46, 45-68.

梶浦真由美(2000). 明治・大正期の幼稚園における『折り紙』. 北海道文教短期大学研究紀要, 24, 1-10(大森隆子(2012). 遊戯折り紙研究考(4)——わが国幼稚園創設期の折り紙教育について——. 椋山女学園大学教育学部紀要, 5, 91-100.を参考)

玉成高等保育学校幼児教育研究会(1976)『フレーベルの恩物(手技・工作編)』フレーベル館.

玉成保育専門学校恩物研究会(2000)『フレーベルの恩物で遊ぼう』フレーベル館.

コトバンク. 「ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典「恩物」の解説」. <https://kotobank.jp/word/%E6%81%A9%E7%89%A9-42031>, 2022年1月2日取得.

コトバンク. 「ロマン主義」. <https://kotobank.jp/word/%E3%83%AD%E3%83%9E%E3%83%B3%E4%B8%BB%E7%BE%A9-153406>, 2021年12月29日取得.

コトバンク. 「世界大百科事典 第2版「ロマン主義」の解説」. <https://kotobank.jp/word/%E3%83%AD%E3%83%9E%E3%83%B3%E4%B8%BB%E7%BE%A9-153406>, 2021年12月25日取得.

コトバンク. 「旺文社日本史事典 三訂版「ロマン主義」の解説」. <https://kotobank.jp/word/%E3%83%AD%E3%83%9E%E3%83%B3%E4%B8%BB%E7%BE%A9-153406>, 2021年12月25日取得.

コトバンク. 「ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典「ロマン主義」の解説」. <https://kotobank.jp/word/%E3%83%AD%E3%83%9E%E3%83%B3%E4%B8%BB%E7%BE%A9-153406>, 2021年12月25日取得.

コトバンク. 「旺文社世界史事典 三訂版「ロマン主義」の解説」. <https://kotobank.jp/word/%E3%83%AD%E3%83%9E%E3%83%B3%E4%B8%BB%E7%BE%A9-153406>, 2021年12月25日取得.

荘司泰弘(2001a). フレーベルの恩物研究(第17報)——形と形態学——. 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 12, 137-148.

荘司泰弘(2001b). フレーベルの恩物研究(第18報)——園庭について——. 研究論叢 第3部 芸術・体育・教育・心理, 51, 227-242.

田岡由美子(1999). フレーベルにおける「予感」(Ahnung)をめぐる——主著『人間の教育』を中心に再検討する——, 日本ペスタロッチー・フレーベル学会紀要, 12, 33-49.

つばめのおうち. 「フレーベル恩物特集」. <https://www.froebel-tsubame.jp/html/page140.html>, 2022年1月2日取得.

津守眞(1951). フレーベルの生涯. 幼児の教育, 50, 6, 49-66.

広岡義之(2018). ボルノーにおけるフレーベル幼児教育思想の一考察(2)「恩物」の教育学的意義について, 神戸親和女子大学研究論叢, 51, 85-93.

(著)フリードリッヒ・フレーベル, (訳)長田新(1924). 『児童神性論』. 目黒書店.

フレーベル・ペスタロッチ学会. 「フレーベル関係文献リスト」. <https://home.hiroshima-u.ac.jp/pesfre/library/libF.html>, 2021年12月29日取得.

文部科学省. 「五 幼稚園の創設」. https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317591.htm, 2021年12月29日取得.

(なお、本研究に開示すべきCOI関係にある企業等はありません。)

(Naoto WATANABE)